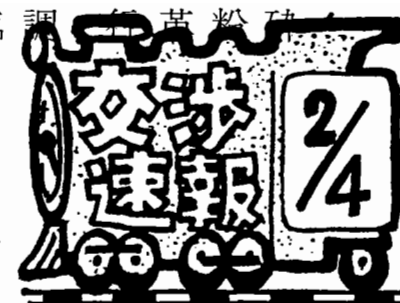


国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二二（七）二〇七

対導入の適性検査の心理



カニマル生の攻撃

四月一日強行実施を許すな

国鉄当局は二月四日、従来からの「心理適性検査」を「運転適性検査」に変更し、定期的に実施するとの提案を行ってきた。
提案の内容は次のとおりである。

1. 検査対象者（運転関係のみ記載）
検修・事務を除く全職種
2. 検査項目
① 作業性に関する検査↓クレベリン検査
② 識別性に関する検査↓知能検査
3. 検査時期
① 作業性に関する検査は三年ごとと実施
② 識別性に関する検査は満四〇歳に達した後
の作業性に関する検査実施時に併せて一回実施
4. 検査の実施方
① 一般検査の結果、精密検査を必要とする者
に対しては精密検査を実施
② 精密検査の結果、精密検査を必要とする者
に対しては精密検査を実施
5. 実施時期
一九八三年四月一日から実施

差別をもちこみ、配転・合理化のテコに

当局はこの「心理適性検査」を実施する理由として「昨年の日航機事故、国鉄名古屋駅での機関車脱線事故などで社会的に許されない状況が生まれた」からであり、「輸送の安全のため」に、そして「適性は加齢により経年変化」するので「今後定期的に検査を実施する」と説明している。

「事故」責任が「労働者にのみある」とする当局の反動姿勢のあらわれ
この提案の問題点は、「輸送の安全確保」を大義名分としながら、労働者を「検査」しチェックすることで「事故防止」をしようという徹頭徹尾労働者不信の姿勢である。
当局は、自らの運転保安対策無視をタナあげし、たうえて、「事故」が起これば一切の責任を労働者に転嫁するというこれまでの姿勢をより一段と強めていこうとするものである。

労働者を骨抜きにすることを狙った「心適検査」を許すな

すなわち、「心理適性検査」導入のねらいは、「試験」実施をとおして職員一人ひとりを識別する第二マル生攻撃であり、人員削減、配転を意図する攻撃である。
そして、今日の第二臨調II行革、とりわけ「緊急措置11項目」実施による国鉄労働運動解体攻撃の一手段としての労働者差別II保安処分的危険性をはらんだ攻撃であり、絶対に認めることはできない。

交渉に出席した本部交渉部・乗務員分科会役員・各支部乗務員分科会長は、反対の態度を明確にしながら当局を追及し、交渉を打切った。
労働千葉は今後、本部I関係分科との連携を密にした取組みを強化し、動労「本部」革マルの裏切りを許さず闘い抜いていこう。

一九三〇年一月一日千葉県山武郡成東町に生まれる。
一九四二年成東小学校卒業
後、成東農学校を経て鉄道学園中等部機械科卒業。
国鉄千葉機関区に勤務。

一九五二年国鉄動力車労働組合結成に参画、以後一九七九年まで二十八年間、同労働中央執行委員、書記長、副執行委員、書記長、副書記長を歴任。

中江昌夫のあゆんだ道



この間、中央公労協権利対策委員会議長、全国交通運輸労働組合協議会副議長、国鉄関連産業労働

一九五四年日本社会党に入党、現在、同党千葉県本部庶民対策部長、船橋支部市民運動部長のほか、核戦争に反対し、

憲法とくらしを守る船橋市民の会代表、国鉄千葉動力車労働組合顧問。
俳人協会々員、俳句作家連盟全国委員、俳句誌〈鳴〉編集長をつとめる。
俳号中江月鈴子（なかえげつれいし）
スポーツは陸上競技のほか剣道二段、家庭園芸士。
家族は、清子夫人と長女の美由紀さんの二人。
夫人は、船橋市母子福祉委員、地域保健推進委員として活躍中。

'83政治決戦に勝利し、反動中曾根内閣を打倒しよう！
船橋市議選
中江昌夫 候補
必勝にむけ、総決起しよう！